

授業科目名： 英語演習（2）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大和洋子 担当形態： 単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
「学位授与の方針」との関係 DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標 中高の英語科教師として「英語で英語を教える力」を身に付けることを第1の目的にしています。単に英語力をつけるための講座ではありません。 既にCEFR B2レベル以上の英語の力があっても効果的な授業運営ができるかは、別問題になります。教材を読み解く力は言うまでもなく、生徒とやりとりするために必要な英語の基礎力（授業力）を向上させることを目指します。具体的には、(1)Question Making（質問力）、(2)Paraphrase（別の表現で言い換える力）、(3)Narrating（題材を語る力）の3つのポイントに絞って、英語のスキルを高めることを目標とします。			
授業の概要 テキスト教材ではなく、オンライン講座（受講者の英語力により多少前後しますが40教材程度）×15回の事前学習（現行の高校 English communication I の1課分のモデル授業を使った指導法の訓練とまとまった文章を読む課題に加えて、オンラインによるスクーリングで履修生の希望する校種の模擬授業を行っていただきます。			
授業計画 1回目：授業ビデオ分析1 Part 1 英語で教えている高校英語授業を観察して、「英語で英語を教える」授業の具体的なイメージを持つ。授業ビデオ分析レッスンの目的（oral introductionとは） 1. 高校検定教科書を使って英語で教える具体的なイメージを持つ / 2. 生徒と英語でやり取りするために必要な工夫について学ぶ 3. 新しい語彙・表現を英語で教える方法を知る 2回目：英語トレーニング1 英語でやり取りする力を向上するために、3つのポイントに絞って短めのパッセージを使って英語トレーニングを行う。 1. Question making / 2. Paraphrase (both vocabularies and phrases) / 3. Narrating 3回目：英語トレーニング2 4回目：授業ビデオ分析2 Part 2 テキストPart 2を使った授業分析1の継続的訓練。 5回目：英語トレーニング3 6回目：英語トレーニング4 7回目：授業ビデオ分析3 Part 3 8回目：英語トレーニング5 9回目：英語トレーニング6 10回目：授業ビデオ分析4 Part 3 11回目：英語トレーニング7 12回目：英語トレーニング8 13回目：まとめ：1時間目の授業 14回目：まとめ：2時間目の授業：前時の本文内容の振り返り（13回目と同様の活動） 15回目：まとめテスト 科目修得試験			
スクーリングでの学修 履修生の人数にもよるが、オンライン教材のビデオで授業の流れを確認し、2日間に分けて、履修生一人一人に希望する校種、学年の実際のテキストを使い50分の模擬授業を実践し、全員で授業分析、講評し合う。			
テキスト オンライン教材にてテキスト無し／各自が希望する校種の英語科テキスト（最新版）を用意			
参考書・参考資料等 英語科指導法I～IVで指定したテキスト及び自分の希望する校種、教科（高校は2種類の英語教科目があることに注意）の実際の学校テキスト。 Google Classroomに教材申し込みの案内を出しています。4月生、10月生どちらも同じ申し込みサイトになりますので、注意してください。e-learningの使用期限は申し込み時から1年間の設定にしております。			
学生に対する評価 オンライン学習評価（20%）、スクーリング評価（50%）、科目修得試験（30%）			